

2-④ 心に響く伝え方

■対象：小学生～中学生の親

■時間：60 分程度

■手法：ロールプレイ

学習のねらい	子どもへの思いの伝え方について役割演技をしたり、話し合ったりすることを通して、場や状況に適したよりよい伝え方について考える。
準備するもの	宝カード 他己紹介用の A4 用紙 筆記用具 ワークシート【P.72】 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、子どもたちの心に響く伝え方について、みなさんと考えてみたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
15分	【アイスブレイク】 ①宝探し〈P.99〉 ②他己紹介〈P.99〉	・②でペアの相手とのコミュニケーションを図ることで、次のワークショップへ入りやすくする。	宝カード 筆記用具 A4 用紙
30分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワーク 1 の場面をお互いに言ってみる ②感想を話し合う ③ワーク 2 を記入する ④ワーク 2 の場面をお互いに言ってみる ⑤感想を話し合う ⑥まとめ	・できるだけなりきってできるように、楽しく自由な雰囲気づくりを心がける。 ・状況によって言い方はかわってくるが、あくまで例として考えるよう伝える。 ・場面はあまり限定せず、自由に考えるように伝える。 ・一言で簡単にコメントする。	ワークシート (P.72)
13分	【ふり返りと分かち合い】 ①グループでふり返る ・グループ内での紹介 ・気をつけること ②感想をワーク 3 に記入する	・グループで、心に響く伝え方について具体的に考えるよう伝える。 ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。	
2分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ 親の伝え方ひとつで、子どもの受けとり方も様々です。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.112「良いことをしたときはしっかりほめてあげる」「感情にまかせて叱ることとしつけとは違う」から状況に応じて選んで読む。 《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		配付資料

2-④ 心に響く伝え方

①ワーク1の場面をお互いに言ってみる（5分）



ワークシートを配ります。それでは、2人組でワーク1にある台詞^{せりふ}を親役と子ども役に分かれて相手に言ってみましょう。できるだけ雰囲気を出してなりきって言ってください。
できれば、子ども役の方は、親の台詞^{せりふ}に対して反応してみてください。
1人が終わったら、役割を変えて、親役・子ども役の両方を体験してください。

②感想を話し合う（5分）

どうでしたか？
3つの台詞^{せりふ}を言われてどう思ったか、お互いにそれぞれの感想を伝え合いましょう。



○「①は攻撃的」「②はいやみ」「③は親身」な伝え方に分類できることを参加者の実態に応じて伝える。

③ワーク2を記入する（9分）



ワーク2の2つの場面で、あなたなら、お子さんに対してどう伝えますか？
考えて記入しましょう。
細かい背景にはこだわらずに書いてください。時間は7分です。

④ワーク2の場面をお互いに言ってみる（5分）

今書いた台詞^{せりふ}を、役割分担をして相手に言ってみましょう。ぜひ、雰囲気を出してなりきって言ってください。



⑤感想を話し合う（5分）



それぞれが考えた台詞^{せりふ}を言われてどうだったか、どう感じたか、お互いに伝え合いましょう。

⑥まとめ（1分）

みなさん、お子さんの感じ方を考えて、伝え方を工夫されていたことがよく分かりました。
それでは、今日の学習をふり返ってみましょう。



【活用のポイント】

このプログラムは、対象となる親（保護者）の子どもの年齢に応じて、ワークシートの場面設定を変更するとよいでしょう。

ワーク1 次の場面の①～③の伝え方を実際に体験してみましょう。

友だちの家に遊びに行った子どもが、6時に帰ると約束したのに7時を過ぎてやっと帰ってきた。

【子ども】「ただいま」 その時あなたは？

【親】

- ①「こんな時間まで何やってたの！ 連絡もしないで！ 6時に帰るって約束したでしょう！」
- ②「お・か・え・り。おかしいわねえ、家の時計が壊れているのかしら。この時計では7時を過ぎてるけど…」
- ③「心配したわよ。6時って約束したんだから遅くなるときは連絡してね」

【子ども】「○○○○○……」

ワーク2 次の場面で、あなたならどう伝えますか。

【遊んだ道具を片づけずに外に遊びに行こうとしたとき】

【宿題の工作がうまくいなくてイライラしているとき】

**ワーク3 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。**